



図書館 だより

図書館 ☎ 69♦3706

おしえて! 図書館 (レファレンス)

Q 「春分」と「春分の日」っておんなじ?

A 答えは「いいえ」です。昼と夜がほぼ同じ長さになるといわれる「春分」は太陽の動きをもとに作られた二十四節気のひとつ。一方「春分の日」は“自然をたたえ、生物をいつくしむ日”という国民の祝日です。

ちなみに、天文学ではその瞬間とし、今年の「春分」は3月21日午前7時45分、今年3月20日午後1時30分です。(参考文献『理科学年表第88冊・第89冊』)



イラストでわかる
おうち歳時記
暮らし&おもてなしのヒント

三浦康子 / 監修
朝日新聞出版

レファレンスとは情報や本などを探すお手伝いをする図書館のサービスのひとつです。

図書館に入った本



毎月1,000冊以上の本が入ります。
一部をご紹介します♪

	『楽に生きるための人生相談』 美輪明宏 / 著 朝日新聞出版
	『愛知の美味しい手みやげ』 プレミア・ワーズ ★蒲郡のお店も載っています♪
	『ユートピア』 湊かなえ / 著 集英社 『おっかなの晩 船宿若狭屋あやかし話』 折口真喜子 / 著 東京創元社

貸出中の場合もありますので、本が見当たらない時はお気軽に職員にお尋ねください。

タカアシガニを食べるツアー

■食べたらおいしいのかな

水槽の前でお客さんから聞かれる質問で圧倒的に多いのは「これ、食べられるのですか、おいしいのですか」というもの。海に囲まれて魚食文化が強い日本の水族館ならではの質問で、海外ではほとんど耳にしない特徴的なことです。そんな質問が一番多く寄せられる生き物が世界最大のカニ「タカアシガニ」です。スーパードルフィンにはこんなでっかいカニは売っていないし見たこともないので、みなさ

■タカアシガニを食べよう!

あまりにもよく味について聞かれるのでこの冬に「ではタカアシガニを実際に食べよう!」というイベントを開催しました。先にタカアシガニについて飼いや水族館へやってくる過程、特徴などを我々がガイドして、そのあと市内の料亭に協力してもらい、みんなでタカアシガニのフルコースを味わっちゃおう、というイベントで東京からも参加の応募があり、年齢は8歳から83歳まで、定員を上回



水族館



館長 小林龍二

竹島水族館
☎ 68♦2059

■解説を完全に忘れる満足度

水族館には大部屋やレクチャールームが無いので寒い冬の中、苦行のごとく暖房の無い裏方で凍えながらタカアシガニのレクチャーや記念撮影をみっちり2時間。そのあとバスで移動して試食会となりました。試食で使用した大きなタカアシガニはなんと6匹25人前。料理は唐揚げ、焼き、茶わん蒸しからカニ味噌スープ、鍋など料理長の気合に満ちた豪華スペシヤルセットで、参加者は無心にそれを食べ、時折「うめえよお!」と突然わめいたり「幸せだあ」とつぶやいたりして満足げな顔。その充実感で、前半の寒さの中の我々の情熱レクチャーは、はるか

■食べれる水族館の案

かなたに忘れ去られてしまったようです。
海産物という言葉があるように日本人にとって水中の生き物と一番関わることは「食べる」ことです。ガラス越しに見た生き物の実際の味がわかったり、いつも食べている生き物の泳いでいる姿を見ることができると、というのは勉強になるし命の大切さも身に染みてわかるようです。水族館の中や周辺に、そのように気軽に食べられるお店があり、そこで我々が食べているお客さんを前に説明をしたり、水槽の解説パネルに味や食べられるお店の紹介などができたら、きっと全国から注目されお客さんがやってくると思います。